



Weekly Market Report

Oct 27, 2025

1. 為替相場概況

先週は高市トレードにより円安進展。中銀ウィークを経て円安地合いは継続となるか注目したい

USD/JPY（1週間の値動き）



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は1ドル=150円台半ばからスタートし、一時153円近辺まで上昇する円安方向での推移となった。前週末に自民党・日本維新の会の連立交渉について報じられると一時的に151円超まで上昇する往ってこいの展開に。その後、首相指名選挙での高市内閣発足を背景に日銀が10月利上げを見送る旨の観測が強まるとドル円は152円程まで上昇。週末にかけて、ドル円は米国が露大手石油会社に制裁を科す方針について報じられると原油高が進行、ドル円は152円台半ばまで上昇。その後、高市首相の所信表明演説にて積極財政のスタンスについて改めて確認されるとさらに円安進展、最終的に1ドル=153円近辺で越過。

今週は28-29日にFOMC、29-30日にBOJ、30日にECBを控えた中銀ウィークとなっている。BOJでは10月利上げ見送りの見方が大宗ではあるものの、高市政権が始動し財政拡張観測が強まる中での日銀の経済・物価見通しのシナリオに注目したい。(市場営業部/遠藤)

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
10/29(水)	(米国) FOMC	3.75%-4.00%
10/30(木)	(日本) 日銀政策決定会合	0.50%
10/30(木)	(米国) 3Q GDP	3.00%
10/30(木)	(欧州) ECB	-
10/31(金)	(日本) 東京CPI	2.50%

USD/JPY（5年間）



今週のレンジ予想（USD/JPY）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
松榮俊樹	151.00 – 154.00	今週開催のBOJ・FOMCに注目。結果が市場予想と乖離無い場合、米ロ・米中対立懸念も相まって上値は限定的か。
堀広太	151.00 – 154.40	今週は中央銀行のイベントに注目。市場は今会合の予想を織り込み済、次回会合に関する示唆があるか注目。

2. 円金利相場概況

財政拡張懸念は一服、今週は中銀会合に注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



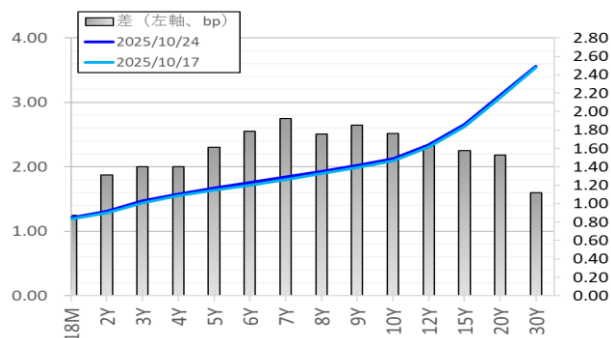
(出所) Bloomberg

コメント

24日の10年国債金利は前週末から+0.028%の1.659%で引けとなっている。20日は前週末の米地銀を巡る信用不安が後退したことを受け、10年国債金利は上昇して寄り付くと、その後は高田審議委員によるタカ寄りの発言を受けて、国債金利は中長期ゾーンを中心に上昇。23日の流動性供給入札（15.5年超39年未満）は堅調な結果となり、超長期ゾーンの需要の高さが意識される結果となった。木曜日以降は株高に伴うバランス目的の買いや高市内閣下での財政拡大懸念の後退なども背景に超長期ゾーンを中心にカーブはフラット化。今週は片山さつき財務相とベッセント財務長官の会談、高市総理とトランプ大統領の会談、日銀金融政策決定会合など重要なイベントが多く予定されている。特に日銀会合では利上げを提案する委員の数に変化はあるのか、高市内閣発足を受け9月会合から姿勢に変化があるのかに注目していきたい。（市場商品部/金利G）

金利スワップ変化（1週間）

(%)



5年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
森本泉貴	1.60% - 1.70%	日米首脳会談での米側からの防衛費増額・円安是正などの要求に注目。日銀は前回利上げ票の委員の動向に注意したい。
伊豆浦有里恵	1.60% - 1.69%	FOMC、BOJ後の発言等、市場予想通り波乱なく通過すれば、円金利は一時的に上下するも影響は限定的とみる。

3. 今週のトピックス

カナダドル相場動向のアップデート

今後のインフレ動向に注目。当面のカナダドル相場は対円・対米ドルで強含みで推移すると予想

カナダは米国との経済連動性が高く、同国中央銀行であるBOCの動向は米国FRBの金融政策方針を見通す上での先行指数として知られている。本項では、カナダの金融政策方針を探る上で重視されるインフレ動向と、カナダドル相場との相関関係が強い原油価格の推移から当面のカナダドル相場について考察する。

金融政策決定会合

カナダ中央銀行（以下BOC）は2025年7月に政策金利を据え置きとしたが、同年9月に0.25%の利下げを決定し、2.5%とすることを発表した。トランプ関税の不確実性と基調的なインフレ率を背景に、7月は現状維持したものの、8月以降のカナダ労働市場の軟化、インフレに対する上昇圧力の減少、報復関税の撤廃による将来のインフレリスクの低下を理由に、9月に政策金利の引き下げを決定した。今後の見通しとして、市場では次回10月の会合で0.25%の利下げが予想されているが、下記の通り、インフレ率が市場予想を上回る可能性も考えられ、サプライズ的な政策金利の据え置きに警戒したい。

CPIとWTI原油先物

【図1】は、2024年11月以降のCPIとWTI原油先物の推移を示している。2025年7月のCPIは鈍化した。主要要因としてガソリン価格の下落が挙げられたが、同年8月以降、トランプ関税による世界経済見通しの低迷を受け、下落幅は縮小され、その結果CPIの伸びは加速した。今後はトランプ関税関連のコストが消費者に影響を及ぼし始めると考え、今後のCPIは市場予想を上回る結果が予想される。

また、2025年7月原油価格は中東情勢の緊迫化を受け、上昇したが、同年8月以降、米国による相互関税の引き上げや中国の経済指標の悪化のほか、OPECプラスが9月、10月に追加増産を決定したことにより下落基調を辿った。引き続きOPECプラスは追加増産を実施する姿勢を示しているものの、足元で原油価格は軟化していることから、次第に増産規模を調整すると考え、今後は50ドル前半で安定推移すると予想。

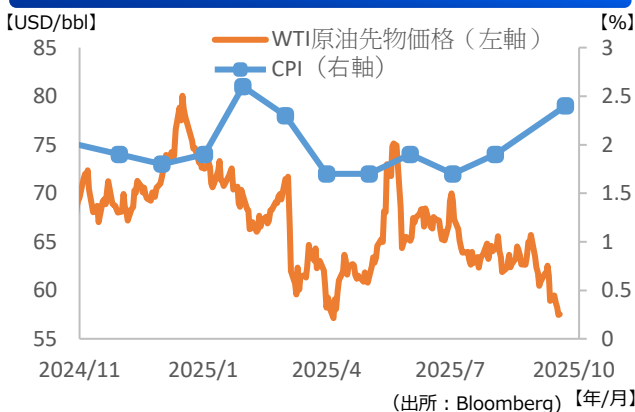
カナダ2年・10年国債金利

【図2】は、2024年11月以降のカナダ国債金利（2年・10年）の推移を示している。上記の通り、2025年10月の金融政策決定会合にて政策金利の引き下げが有力視されており、市場では約9割弱程度織り込まれている（2025年10月22日時点）。したがって、中央銀行の政策金利に左右されやすい2年国債金利は下落基調を辿っているが、市場予想が外れた場合の金利上昇には警戒したい。また、将来の経済成長期待や物価上昇期待の影響を受けやすい10年国債金利も足元で低下基調を辿っているが、今後は原油価格の安定がカナダ経済の下支えになると考え、底堅く推移すると予想。

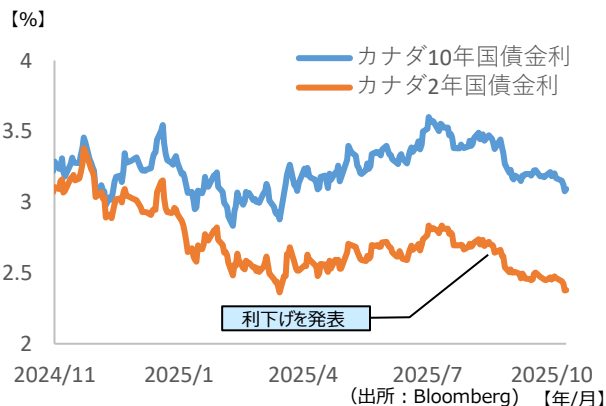
今後のカナダドル相場展開

【図3】は2024年11月以降のカナダドル相場（対円・対米ドル）の推移を示している。2025年2月以降、トランプ関税発動による米経済後退懸念から対米ドルでは大幅上昇したが、同年7月以降米利下げ期待の後退からドル高含みで推移。対円では原油価格に左右される展開となった。当面の見通しとして、インフレ率の上昇を背景に、BOCは利下げに慎重な姿勢を示すと予想され、両通貨に対しカナダドル高含みで推移すると予想。加えて、対円では原油価格の下落が上昇圧力を加速させるだろう。（市場営業部/下出）

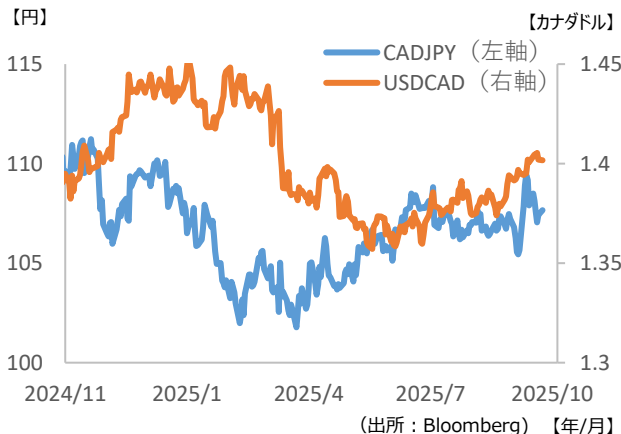
【図1】消費者物価指数（CPI）とWTI原油先物の推移



【図2】カナダ国債金利（2年・10年）の推移



【図3】カナダドル相場（対円、対米ドル）の推移



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会